

# 令和2年度 学校自己評価システムシート (学校法人昌平学園 昌平高等学校)

目指す学校像	生徒一人ひとりの進路希望を実現するとともに、他者を思いやる優しさ、困難に立ち向かう逞しさ、自ら知を求める積極さをあわせ持ち、広く社会に貢献・奉仕しようとする人材の育成を図る。 教員のモットー「手をかけ 鍛えて 送り出す」
--------	---

重点目標	1. 才能開発教育：個々の生徒の能力を最大限に引き出す。 2. 人間教育：高い品性と正しい判断力を養成する。 3. 健康教育：心身ともに健康な人間を育成する。 4. 国際教育：国際的視野に立って考え、行動する力を養成する。
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、法人評議委員により、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	3名
	卒業生	1名
	学識経験者	4名

学 校 自 己 評 価							学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標					年 度 評 価 (3月)		実 施 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	中間評価	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	①大学進学等、生徒が進路目標を達成できるよう主体的に学ぶことができる環境を作る。ICTを活用した授業展開もより積極的に取り入れていく。 ②進路目標、進路を含めた自己実現に向けた計画策定等を行う。 ③英検やGTEC、TOEICなど資格の取得を学校としても推進する。 ④授業だけでなく、自分で拍手する時間を確保するよう働きかけるとともに、習慣化していけるよう取り組む。	①各教員が教材研究を充実させ、授業力向上を図る。ICTを活用し分かりやすい授業展開を実践する取り組みをする。 ②進路目標達成に向け、担任・学年団を中心に面談を実施し、現状把握に努める。また、様々な進路情報を生徒に伝達する機会を設ける。 ③特に英語についてはパワー・イングリッシュ・プロジェクトの取組をもとに、資格取得を推進し、計画的な資格取得ができるように促す。 ④目標達成に向けて学習計画および時間を管理し、工夫できるようアドバイスを積極的に行う。	①教材研究に積極的に取り組むことができる環境づくり、大学入試に向けた入試データ分析研修等への積極的な参加や情報共有を行う。生徒に対しては模擬試験の分析結果をフィードバックし、現状の把握とともに今後の取組を精査する。プロジェクト・スクリーン等 ICT 機器を積極的に活用し、探求型授業を深化させていく。 ②学年団を中心に進路講演会等で大学情報を収集できる環境を整える。入試情報については適宜伝達することで生徒のモチベーションを引き出す。学習室を充実させ、学習の質問対応とともに進路に関する質問対応も行う環境を作る。 ③英語検定については全員受験、その他、G-TEC や TOEIC・TOEIC Bridge・漢字検定・語彙読解力検定などの資格試験の案内を積極的にを行い、また、校内でも受験ができる体制を整える。 ④「スタディサプリ」を導入しており、補完的な学習として活用するよう指導する。	①ICTについては、プロジェクト等を活用する授業展開も増えている。視覚的に情報を伝達することでやる気を引き出している。進路指導部・学年主任が中心となって行う模擬試験の分析結果をもとに、生徒個々に現状における課題を整理、克服に向けた取り組みが行える環境を作っている。 ②担任との面談等を通して、目標とする大学とともに、受験校を精査している。 ③各種検定の取得状況を担任が把握し、大学受験等での活用に向けてアドバイスできる環境を作っている。 ④リクルート社「スタディサプリ」について、担任からも予習とともに復習ができる環境作りを行っている。	①10月に実施の授業評価アンケートの結果をもとに各教員が、現状における課題を精査し改善に努めているか。模擬試験分析をもとに生徒個々への具体的なフィードバックや今後に向けた対策を講じることができているか。 ②面談等を通して、目標とする大学受験に向けた主体的な取り組みができる環境作りができているか。 ③資格取得に向けた取り組みを促すために生徒への情報伝達が明確にできたか。 ④計画的に学習習慣を確立し、自主的な取組ができるような環境づくり、働きかけはできているか。	①授業評価アンケートについては生徒からの現状評価をもとに、各教員が課題を抽出し、教材研究をはじめ授業展開においても改善をしていく工夫が見られた。教科ごとにお互いの授業見学等を通して、課題の精査を行う必要もある。模擬試験結果のフィードバックにおいても担任からの情報伝達する環境が浸透してきている。ICTの授業における活用については研修や参考例の情報提示等で更なる活性化につなげる必要がある。 ②東京大学には初の推薦合格など国立大学 84名、早慶上理は過去最多の84名、G-MARICHの合格者数 163名と昨年には届かなかったが成果を上げることができた。 ③英検の取得について、今年はコロナ禍の影響もあってか約 83.3%と昨年度より 0.3%減少した。ただ、各学年において準 1級・1級の上位級は合格生徒数が増加している。高校3年生は1級に2名、準 1級 25名の合格は特筆すべき点と言える。一方で高 1は未取得者が 22.2%となり、今後も積極的な受験への働きかけを行っていく必要がある。 ④学習室の使用状況については特に試験前は早朝から最終下校時刻まで残っているなど学習に高い意識をもつ生徒が多い。また、現状で3つ完備している学習室だけでは足りない状況も見られる。部活動に所属する生徒も部活動前後の時間を活用し、学習に励んでおり、文武両道が実践されていると言える。	B	①教員同士の授業見学、教科ごとに研究授業等を積極的に実施し、学びを得られる環境を作り出す。生徒が掲げる志望校合格に向けて教員全体が情報共有し、大枠の計画を策定していく。ICTについては、計画的に活用における実践例の紹介を行い、全教員が活用できる体制を整えていく必要がある。 ②生徒が主体的に学ぶ環境を作っていくために進路講演会のみならず、学年団や担任からも情報を伝達していく機会をさらに作っていく。 ③特に全員受験の英検についてはクラスによって取得状況にばらつきがみられる。担任が取得に向けた積極的に取り組むことができるような情報伝達を行う。 ④現状において、学習室を積極的に活用する意欲の高い生徒が多いため、学習室の環境整備を含め、良い環境が作れるよう努める。
2	①日常生活におけるマナー指導、身だしなみとともに学習を継続して行う上での基本的な生活習慣を確立する。 ②生徒が主体的に参加する生徒会活動や課外活動の充実を図る。 ③生徒に様々な情報を伝達する機会を大切にするとともに、生徒のコミュニケーションスキルが向上できる環境づくりを行う。	①生徒が公共交通機関や自転車での通学時において適切なマナーを理解、実践できているか。 ②各行事に対して積極的に参加、部活動において充実した取組ができているか。 ③担任をはじめ各教員が面談等を通して生徒と積極的にコミュニケーションをとる機会を作ることができているか。	①生活指導部が現状把握に努め、ホームルームを通して教員が必要な生活習慣の確立を促す。校外指導においても現状把握を行い、マナーをはじめとする指導を積極的に行っていく。 ②小学校の学習指導等、ボランティア活動などを周知し、積極的な参加を呼び掛ける。 ③定期的に面談を行い、生徒と積極的にコミュニケーションをとることで意欲的な活動を促す。	①来校者の方から特にあいさつについては素晴らしいとお声かけていた。通学においてはコロナ禍においても巡回等で行い、電車における乗車マナーについて課題があり指導が必要な状況もある。 ②コロナ禍においてボランティア活動が中止を余儀なくされている生徒の考えを引き出した中で、現状把握を行うことで、前向きに取り組むことができる環境ができてきている。	①登下校時における通学路指導を行い、マナーが守られているかの現状把握を行う。また、校内においても巡回等で行い、改善に努めているか。 ②コロナ禍において限られた活動ではあるが、できるものは周知しているか。 ③生徒の状況把握に積極的に努めているか。	①登下校時における通学マナーについては、コロナ禍において電車等でのマナー(マスクの着用等)について注意を行う状況があった。クラス担任から積極的に情報を伝達し、改善に努めている必要がある。 ②コロナ禍で例年行われていた多くの活動が中止となった。 ③担任のみならず教科担当も生徒と面談を行い、抱える悩みや課題に対する対応を行うなど積極的な働きかけができている。	B	①通学時においては、特にコロナ禍におけるマスク着用や電車内での友人同士の話し方マナーなどさらなる改善を求めていく必要がある。 ②例年行われていた杉戸町をはじめとする近隣の地域交流については、コロナ禍において中止となってしまった。 ③生徒と教員が面談等を通して積極的にコミュニケーションを取れる環境は作れていた。
3	①文武両道が実践できる環境を整える ②担任を中心に様々な相談ができる体制を充実させる。	①学習・部活動の文武両道ができる環境が整っているか。学校生活状況の把握を行う。 ②面談等を通して、生徒が抱える悩みの解決や精神的な支援ができているか。	①部活動においてはコロナ禍において限られた時間での活動となるため、効率的・効果的に指導を行い、生徒の成長を促す。学習においても時間管理における工夫等、生徒のやる気を引き出す環境を作る。 ②SNS講習会を行い、現代社会における問題提起し、未然に防ぐとともに、解決・相談できる体制を作り出す。	①新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、関東大会をはじめとする各種大会が中止となったことで生徒のモチベーション作りをしていく必要がある。その中でも生徒は学習時間を確保し、課題を持って学習面にも取り組んでいた。 ②担任が生徒状況を適宜確認し、個人面談等を通して生徒の状況把握に努めている。	①部活動外の時間を活用して、自主学習に意欲的に取り組むことができる環境が整えられているか。 ②生徒との面談等を通して実情の把握ができているか。特にSNSにおける問題点等の実態を理解・把握できているか。	①部活動においては制限がある中で計画的に行い、成長を実感できる環境ができている。文武労働を実践する上で学習時間が確保できる体制・環境を教員が作り、生徒に主体的な取組を促している。この取組の中で冬の全国大会出場には4つの部活動が出場するなど、素晴らしい結果を残すことができた。また、全国大会に出場した選手から難関大学への合格者を輩出するなど文武両道を体現できる生徒が増えている。 ②生徒の状況把握は担任が行うように努めているが、SNS使用における課題はまだ残る状況である。担任からのマナー指導等、課題解決に努める。	B	①文武両道における具体的な取組が習慣化され、成果にもつながっていると言える。実際に全国大会に出場した選手が自らの目標とする進学先に合格するなど良い方向につながったと言える。下級生も現状から学び、数多くの取組ができると期待できる。 ②SNSの対応状況については、他校の状況もリサーチし、現状の課題克服に努めていく必要がある。
4	①英語力の強化につなげる ②学校行事(希望生徒対象)として行う語学研修の充実を図る。 ③帰国子女入試等、積極的に受け入れる環境づくりを行う。	①実践の場で活用できる英語力・会話力を身につけることができるか。 ②コロナ禍において、海外や国内施設等、現地で研修ができない状況のため、オンラインで実施するなど生徒の学びの場を提供することができるか。 ③帰国子女の生徒が他生徒に良い与えることができるか。	①ネイティブ教員が常駐する International Arena(日本語禁止部屋)を生徒が積極的に活用できる環境、体制を全教員で行っている。 ②今年度はコロナ禍の中で海外語学研修の実施ができなかったため、オンラインでの研修を新設するなど英語に触れる機会を確保する。 ③帰国子女生徒との交流を通して、英語の重要性を理解し、英語力向上に向けたモチベーションアップにつなげていく。	①休み時間に International Arena(日本語禁止部屋)でネイティブ教員と積極的に会話をする生徒が多く見られた。 ②今年度、実施したグローバルサマースクールには 23名が参加した。また今年度、新設したオンライン語学研修 with セブ島には 10名が参加するなど自らの英語力向上に努める高い意識を持っている。 ③帰国子女の語学力の高さに感化され、刺激を受けることで英語に関心を更につけていく生徒が増えている。	①International Arena(日本語禁止部屋)の活用状況(人数等)を確認する。 ②校内行事における国際交流活動の成果報告・発表がされたか。また、活動において生徒が英語を学ぶモチベーションにつながっているか。 ③帰国子女との交流が他の生徒のモチベーション向上につながっているか。現状の帰国募集については一定数、興味・関心のある家庭が増えている。その中で、海外在住日本人への認知度を高める具体的な活動ができたか。	①International Arena(日本語禁止部屋)においてネイティブ教員の工夫により楽しむことから学習に興味を持つことができ環境が確立されている。 ②コロナ禍の影響により、海外語学研修は中止となったが、英語力向上への意識は高く、中止した行事を含め多くの参加があった。 ③帰国子女との交流により、多様な学び、様々な情報を得ることで英語を学習していく上でのモチベーション向上につながっていると見える。	B	①International Arena(日本語禁止部屋)においてはネイティブ教員の工夫により楽しむことから学習に興味を持つことができ環境が確立されている。 ②コロナ禍においても生徒の学びの機会を作るためにオンラインでのプログラムを含め、生徒が力をつけていく上でさらなる充実化を図っていく。 ③帰国子女からの刺激を受け、英語への興味・関心、モチベーションの向上につながっている生徒が増えている点から、今後も積極的に募集を行っていく環境を確立していく。

学校関係者からの意見・要望・評価等	①東京大学への初の推薦合格をはじめ、今年は早慶上理においては過去最多の 84 名合格など素晴らしい結果だった。多くの生徒が放課後に学習室を利用するなど意欲的に取り組んでいる。また、教員も進路指導に親身に対応していた結果と言える。今後も継続した取組をお願いしたい。 ②大学入試改革に伴う、学習における対策等、生徒が前向きに学習に取り組む環境作りをお願いしたい。 ③資格については特に大学入試に向けての活用方法など生徒が今以上に高いモチベーションで取り組むことができるように促してもらいたい。 ④学習室の拡充を含め、放課後においても充実した学習活動ができるように環境整備をお願いしたい。  評価：B
学校関係者評価	①来校時に気持ちよく挨拶をしてもらえるので非常に好感が持てる。コロナ禍において、自分たちのことだけではなく、感染リスクの点からも周囲を意識した行動を取ってもらいたい。 ②コロナ禍において、活動が制限される環境であったため、地域交流ができなかったのは残念だった。ボランティア活動については校内での取組のみならず、感染症対策を講じた中でできる限りの取組を行ってもらいたい。 ③生徒一人ひとりに目を向け生徒の成長を促すために現状把握するとともに積極的な働きかけをしてもらいたい。  評価：B
学校関係者評価	①部活動に所属する生徒の学習面でも頑張っている姿は他の良い模範であり、生徒の励みにもなる。高いモチベーションを持って入学する生徒が多いので今後も継続した取組、環境作りを行ってもらいたい。また、部活動の全国大会での活躍には感動した。更なる向上心を胸に飛躍してほしい。 ②現代の社会において、当たり前のように使われている SNS は便利な一方で問題になる面もある。生徒の状況把握とともに講習会の実施など問題や課題に向き合う機会も作ってもらいたい。  評価：B
学校関係者評価	①英語を得意教科にしていく取組において、パワー・イングリッシュ・プロジェクトの実践についてさらなる強化を図ってもらいたい。基礎的な知識の確立という観点だけではなく、海外で活躍できる人材育成にも目を向け高いレベルでの学習活動に努めてもらいたい。 ②コロナ禍において、現地に行く機会がなかったのは残念だったが、オンライン等でも確かな学びを得られる環境は整備されている。次年度も現状においてできることを精査し、生徒の主体的な学びの一助となる環境を作ってもらいたい。 ③帰国子女生徒の英語力の高さから、生徒がさらに学習に励んでいくモチベーション向上につながっていると見える。今後も募集活動も継続してもらいたい。  評価：B

# 令和2年度 学校自己評価システムシート (学校法人昌平学園 昌平中学校)

目指す学校像	生徒一人ひとりの進路希望を実現するとともに、他者を思いやる優しさ、困難に立ち向かう逞しさ、自ら知を求める積極さをあわせ持ち、広く社会に貢献・奉仕しようとする人材の育成を図る。 教員のモットー「手をかけ 鍛えて 送り出す」
--------	---

重点目標	1. 才能開発教育：個々の生徒の能力を最大限に引き出す。 2. 人間教育：高い品性と正しい判断力を養成する。 3. 健康教育：心身ともに健康な人間を育成する。 4. 国際教育：国際的視野に立って考え、行動する力を養成する。
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、法人評議委員により、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	3名
	卒業生	1名
	学識経験者	4名

学校自己評価									学校関係者評価	
年度目標									実施日 令和3年3月26日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	中間評価	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	①IB授業での学びとともに特に主要5教科について基礎的な知識の習得も徹底する。 ②校外学習や体験学習(プログラム)を通して自ら考えることの基盤作りを行う。 ③各種資格取得を目指す。 ④家庭学習・自学自習の定着を図る。	①生徒が主体的な学び・取組みができるように興味を引き出す授業展開となるように努める。 ②校外学習や体験学習(プログラム)を通して自ら考えることの基盤作りを行う。 ③各種資格取得を目指す。 ④家庭学習・自学自習の定着を図る。	①ICTを積極的に活用する中で視覚的な側面からも生徒の興味関心を引き出すための授業展開を工夫して実践する。また、各教員は教材研究に積極的に取り組むとともに、教員間での授業見学や研究授業を通して授業の質向上に努める。特に主要5教科においては基礎基本の定着を図る取組みを積極的に行う。 ②外務省や大使館訪問をはじめとする校外学習や模擬裁判などにより、知識はもちろん机上では学ぶことができない経験や様々な体験型プログラムを通して身につける。 ③将来に目を向けた中で、特に英検をはじめとする各種資格取得に積極的に取り組むことができる環境を整備する。 ④日々の家庭学習・自主学習を行っていく上で、担任からも積極的に学習計画および時間の管理等についてのアドバイスを行う。その中で生徒が主体的に取り組むとともに工夫していくことができる環境を作り出す。	①ICT機器を積極的に活用することで、生徒が興味を持てる授業が展開できている。 ②コロナ禍において、校外での活動が制限される中、校内および授業内でグループワークを積極的に行うなど工夫がみられる。 ③特に英検において、英語科だけではなく、学年団や担任が資格の取得状況の把握を行い、より積極的な取組みができる環境を作っている。 ④フォーサイト(スケジュール帳)は担任が日々確認をし、生徒の現状把握に努めている。SHシステム(自動問題作成システム)については課題克服に向けた取組みに活用されている。	①教員は授業評価アンケートによる客観的な評価・データから指導をしていく上での課題を認識し、改善を図ることができているか。 ②コロナ禍において現状を理解し、できる限りの活動を企画立案できているか。 ③各種検定に向けての積極的な取組みに対する指導・支援、上位級取得に向けたモチベーション向上につなげることはできたか。 ④フォーサイト(スケジュール帳)やSHシステムの活用状況を適宜確認する中で、教員が現状の把握を行い、生徒の主体的な取組みを促すことができたか。	①ICTを積極的に活用し、生徒の興味を引き出すための授業展開が増えている。教員は学力向上の面からも現状把握を行い、課題克服に努めていくことも大切となる。学力推移調査の結果については、基礎知識の定着も踏まえた授業展開により各教科におけるばらつきが少なくなった。今後に期待したい。 ②今年度はコロナ禍において、様々な体験学習や体験型プログラムの実施ができなかった。その中で校内における活動において工夫を行った。中学3年生についてはコミュニティープロジェクトでのプレゼンテーションは年々質が上がってきていると言える。 ③全員受験の英語検定の取得率においては中学校全体で97.5%となった。3年生は準2級以上の取得率が81.3%、そのうち2級以上は25.3%であり、培ってきた力が着実に結果につながっていると言える。各学年において上位級合格に向け生徒のモチベーション作り等を担任、学年団等で工夫して行っていくことが大切になる。 ④主体的にまた計画的に学習に取り組むことができる生徒が増えている。ただ一方で学習理解に時間がかかることで不安を感じている生徒もいるのが現状である。教員の授業外でのフォローとともにSHシステムの活用など課題克服に積極的な取組みを促す環境を作っている。	B	①IB授業も浸透し主体的な学びの実践とともに基礎知識の定着のための教員の授業における工夫がみられる。さらに質の向上に努めていきたい。また、学力推移調査や定期考査の結果をから生徒に課題等をフィードバックしていくことで前向きな取組みにつながっていくと言える。 ②コロナ禍において様々な工夫を講じる中で体験学習・体験型プログラムもできる限り実施していきたい。その中で見直しや課題の精査は適宜行い、生徒が主体的に学ぶ環境作りをしていく。 ③資格取得に向けて、教科担当だけではなく、担任や学年団を含め学校全体として現状の課題を精査し、支援を行う体制を作っていく。 ④生徒一人ひとりの学習状況を把握し、中学校全体としても個々のアプローチ、学年団においても学力の底上げの観点からも支援体制を作る。	①授業内でICTを積極的に活用されることによって生徒の学びの幅が広がることは非常に良いことである。今後も継続する中で生徒の学力を伸ばす授業展開を行ってほしい。そして、生徒に面談等を通して個別にアプローチ、フィードバックしてもらえる環境作りも継続してほしい。 ②生徒の興味や関心を引き出し、学習に対する意欲向上のために様々なプログラムを実践できていることは非常に良い。今後もグローバルな見方で学習に取り組める環境作りを継続してほしい。 ③資格取得率や上位級の取得状況から学校全体での取り組みが成果に繋がっている。今後も指導を継続する中で更なるモチベーションアップにつながる働きかけをお願いしたい。 ④生徒の現状における学習状況を把握し指導を行ってもらうことで家庭学習を含めた家庭学習の習慣が身についてきている。今後も継続していく中で改善の必要な生徒についてのアプローチも引き続き工夫して行ってもらいたい。 評価：B	
2	①日常におけるマナー指導や基本的な生活習慣を確立する。 ②生徒が主体的に参加する生徒会活動の活性化を図る。 ③コミュニケーションスキル向上を目指す取り組みを活性化させる。	①校内外における身だしなみ・挨拶の励行などマナー指導を積極的に行うことができるか。 ②生徒が主体的に参加する生徒会活動の活性化を図る。 ③コミュニケーションスキル向上を目指す取り組みを活性化させる。	①校内における巡回指導、登下校時の通学路のマナー指導を定期的に行い現状の把握に努め、基本的な生活習慣の確立を促す。 ②地域イベントやボランティア活動の積極的な参加を呼びかける。 ③各行事において英語で問いかけを行うなど、工夫をしながら学びを得る機会を作る工夫をしている。	①通学時の公共交通機関の利用におけるマナーにおいて、概ね良好と言える。しかし、一部コロナ禍における電車内マナーなど配慮に欠ける行動をとってしまう生徒も少なからずいる。 ②コロナ禍において様々な活動が制限される中で多くの活動の中止が余儀なくされた。 ③教職員・生徒ともに挨拶や声かけを行っている。また、学年行事等では指示連絡を英語で行うなど工夫を行っている。	①指導を行う上で教職員間においても現状把握に努め、情報を共有する体制が確立できているか。マナー指導については生徒に自覚を促す指導ができているか。 ②生徒の活動の場を広げることができるように参加の呼びかけができているか。 ③教職員ともに積極的に挨拶・声かけを行うことができているか。	①通学時の公共交通機関利用におけるマナーについてはコロナ禍において、一部の生徒に配慮に欠ける言動が見られた。 ②コロナ禍において、多くのボランティア活動等は実施できない状況となった。校内でできる限りの活動を計画し、活躍の場を作っていく必要がある。 ③積極的な挨拶など生徒の良い関係を築いていると言える。日常において英語を使って指示を行うなど日々学びの環境を作ることができた。	B	①現状における課題を整理し、担任・学年団を中心に継続的な指導に努める。中学朝礼等の時間を活用し指導も行っている。 ②生徒の活躍の場が減っている現状において校内においても感染症対策を徹底して講じた中でボランティア活動の企画立案を行うなど工夫していく必要がある。 ③教職員と生徒が積極的にコミュニケーションを取れる機会をさらに作っていくよう工夫を行う。	①通学時の公共交通機関の利用、乗車マナー等については、日々、担任の先生からも生徒の自覚を促す指導を継続的に行ってほしい。 ②コロナ禍において学校行事等が思う通りに行われないうちにおいて、生徒が活躍できる場をできる限り作ってほしい。 ③生徒が抱える悩みを聞いてもらい、また解決への道の手を差し伸べていくために積極的な働きかけを継続しておこなってほしい。 評価：B	
3	①体育・スポーツ活動を推進する。 ②教育相談を充実させる。	①部活動等の課外活動において、個人、チーム目標を達成するために積極的にチャレンジする姿勢が見られるか。 ②コロナ禍において、様々な活動が制限される中で抱えるストレスや不安・悩みなどをホームルームや個人面談等を通して支援ができていくか。また、SNSトラブルが起らないよう問題提起ができていくか。	①コロナ禍において、日数や時間の制限がある中で活動内容を含めた環境作りで工夫している。 ②生徒の現状における心情等を理解するために積極的に声かけを行うとともに個人面談を実施する。SNS講習会などを通して、生徒が直面している問題への考え方や解決方法を伝えていく機会を作る。	①英語Gの授業では基礎的な知識を習得し、IB英語ではプレゼンテーションを行う機会を作るなど、実践的な場でも活用できるような授業展開を図る。 ②世界における様々な問題を調べ、現状に気づき、正解のない課題に取り組んでいく中で様々な事象を多面的に捉えることの重要性を知る。 ③授業で学んだ知識を今年度は授業やオンラインでの研修等を通して実践する機会を作り、学びの機会を作る。 ④帰国子女生徒の語学力向上に向けた取組みが他の生徒に良い刺激を与える。意欲向上につながる環境を作る。 ⑤調べ学習、プレゼンテーション、ディスカッションなどアクティブラーニング手法の授業実践から主体的な学びの環境を作る。	①生徒が部活動をはじめとする課外活動において目標達成に向けて、主体的な活動ができているか。 ②SNS講習会等を通して実態を知る機会を作り、トラブルを未然に防ぐ取組みが実践されているか。現状把握に努めていくことを継続していくことが大切となる。	B	①コロナ禍において、目標達成に向けて大切なことは計画的に効率的に活動を行うことと言える。生徒一人ひとりの成長のために人間性育成の観点からも継続的に指導にあたっていくべき。 ②SNSトラブルにおいては、起こり得る状況に際して未然に防ぐことを第一に考え、生徒への注意喚起を行っていく体制は継続して作っていく。そして、教職員間においても情報共有し、保護者に対して理解を求める働きかけを積極的に進めていく。 ③今年度もコロナ禍の影響で昨年に引き続き、ニュージーランド研修旅行は中止となった。現地に足を運ぶ研修はできないが、オンラインでの新たなプログラムの提案等、学びの機会を作った。 ④帰国子女と接する中で刺激を受け、語学力向上に今度以上に高い意識を持つ生徒が増えている。帰国子女の募集活動においては現地でできないため、国内で周知する形となるが、現状の進路実績等により認知度も高まってきている。 ⑤IB授業においては生徒のやる気を引き出す展開を含め主体的に考えることで思考力が見についていると感じる。ディスカッションやプレゼンテーションも積極的に取り入れ表現力も身につけている。今後もさらなる質の向上に努めたい。	①学習だけでなく、部活動をはじめとした課外活動を通して、生徒が活躍する場があることは非常に良いことだと感じる。コロナ禍において感染症対策に万全を期して充実した活動を行ってほしい。 ②SNSにおいては学校と保護者もリンクした中で指導にあたっていくことが大切となる。今後も講習会を通して注意喚起を行ってほしい。 評価：B		
4	①実践的な英語力を身につける。 ②「世界」を共通テーマにプロジェクト学習-課題探究プログラムを実践する。 ③実践的な学びの機会を作る。 ④帰国子女生徒の積極的な受け入れにより活性化を図る。 ⑤IB(国際バカロレア)による学習効果の向上を目指す。	①普段、授業の中で学んでいる英語を活用して自分の考えを発信することができるか。 ②世界を意識する・知ることで様々な事象を多面的に捉え、広い視野で物事を見ることができるよう目を持つことができるか。 ③生徒が授業等において学んでいる英語の知識を研修等で実践できる機会を作ることができているか。そして、自らのスキルアップにつなげることができているか。 ④帰国子女生徒が他生徒に良い刺激や影響を与えることができるか。 ⑤MYP(中等教育プログラム)における学習効果がグローバル人材の育成につながる可能性があるか。	①英語の授業においては、知識の習得とともにプレゼンテーションを行う機会を作るなど、実践的な場でも活用できるような授業展開を図る。 ②世界における様々な問題を調べ、現状に気づき、正解のない課題に取り組んでいく中で様々な事象を多面的に捉えることの重要性を知る。 ③授業で学んだ知識を今年度は授業やオンラインでの研修等を通して実践する機会を作り、学びの機会を作る。 ④帰国子女生徒の語学力向上に向けた取組みが他の生徒に良い刺激を与える。意欲向上につながる環境を作る。 ⑤調べ学習、プレゼンテーション、ディスカッションなどアクティブラーニング手法の授業実践から主体的な学びの環境を作る。	①英語Gの授業では基礎的な知識を習得し、IB英語ではプレゼンテーションを行う機会を作るなど、実践的な場でも活用できるような授業展開を図る。 ②コロナ禍において、校外活動を行うことができないが、授業内において、各テーマに基づいた探究プログラムを実施した。調べ学習を通して外国文化を知り、理解を深め、様々な課題を抽出し解決策を考えた。 ③グローバルサマースクールをはじめ、オンラインワークショップなど生徒が実践的な英語力を養う機会を提供した。 ④今年度も在籍する帰国子女から刺激を受ける中で英語力向上の意欲が高まっている。海外募集についてもできる限りの活動は行っている。 ⑤IB教育への理解が深まる中で、授業展開においても質が高まっている。	①授業を通して基礎的な知識を習得できているか。また、実践の場で活用できる英語力の向上につながっているか。英語検定の積極的な受験推進など生徒の理解力に応じた進捗の設定等、授業展開はできているか。 ②課題発見-調べる-まとめる-発表という授業展開を通して、主体的に課題に取り組むことができているようになったか。 ③オンラインでの研修等、新たな取組みの中でチャレンジする姿勢、モチベーション向上につなげることができたか。 ④帰国子女の英語力をモチベーション向上につなげることができているか。生徒募集においては海外在住の日本人に対して認知度を高めることができたか。 ⑤授業実践における教員間の情報共有とともに質の高い授業展開につなげることができたか。	B	①学力推移調査の英語の結果からも基礎知識の習得については、まだ課題は残るが良好な状況になっている。授業におけるプレゼンテーション等で確実な力は身につけている。 ②生徒の学習意欲の向上に伴い、主体的な取組みが見られ、3月に行った発表会においても年々質の向上が見られる。 ③今年度もコロナ禍の影響で昨年に引き続き、ニュージーランド研修旅行は中止となった。現地に足を運ぶ研修はできないが、オンラインでの新たなプログラムの提案等、学びの機会を作った。 ④帰国子女と接する中で刺激を受け、語学力向上に今度以上に高い意識を持つ生徒が増えている。帰国子女の募集活動においては現地でできないため、国内で周知する形となるが、現状の進路実績等により認知度も高まってきている。 ⑤IB授業においては生徒のやる気を引き出す展開を含め主体的に考えることで思考力が見についていると感じる。ディスカッションやプレゼンテーションも積極的に取り入れ表現力も身につけている。今後もさらなる質の向上に努めたい。	①パワー・イングリッシュ・プロジェクト等の具体的な取組みの中で生徒が主体的に学ぶ環境があることは非常に良い。是非、継続してほしい。 ②プロジェクト学習やスペシャルウェンズデーなど調べ学習や発表、話し合いを通して、主体的に考え、学ぶことができる環境は非常に良い。大学受験でも重視される思考力、表現力等の向上に努めてほしい。 ③コロナ禍においても様々な学び場、企画を提案していただけることは大変ありがたい。新設したプログラムにおいては課題を分析し、次年度に活かしてほしい。 ④帰国子女と接する機会が英語力向上のモチベーションとなっており、今後も募集活動の活性化を図ってほしい。 ⑤IB授業において生徒が主体的に考える機会が非常に多く作られている。さらなる工夫とともにICT環境の整備を含め充実化を図ってほしい。 評価：B		